



毎月 1 回 1 日 発行

発行 公益社団法人 全国防災協会

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町 3-11

(パインランド日本橋ビル 5F)

電話 03 (6661) 9730

FAX 03 (6661) 9733

発行責任者 曾田 進

印刷所 (株)白 橋



平成25年度 災害復旧実務講習会 (東京都千代田区 砂防会館)

## 目 次

|                               |                          |    |
|-------------------------------|--------------------------|----|
| 平成24年発生災害の概要……………             | 国土交通省水管理・国土保全局防災課…       | 2  |
| 平成25年度 災害復旧実務講習会 開催……………      | 公益社団法人 全国防災協会…           | 9  |
| 各県コーナー 「福島県」……………             | 福島県土木部河川整備課…             | 14 |
| 査定官メッセージ 「1 年を振り返って」<br>…………… | 国土交通省水管理・国土保全局防災課 黒田 勇一… | 16 |
| 防災課だより 人事異動……………              |                          | 18 |
| 会員だより 「随行員を経験して」……………         | 鹿児島県河川課技術主査 諏訪 正啓…       | 19 |
| 協会だより……………                    |                          | 22 |

# 平成24年発生災害の概要

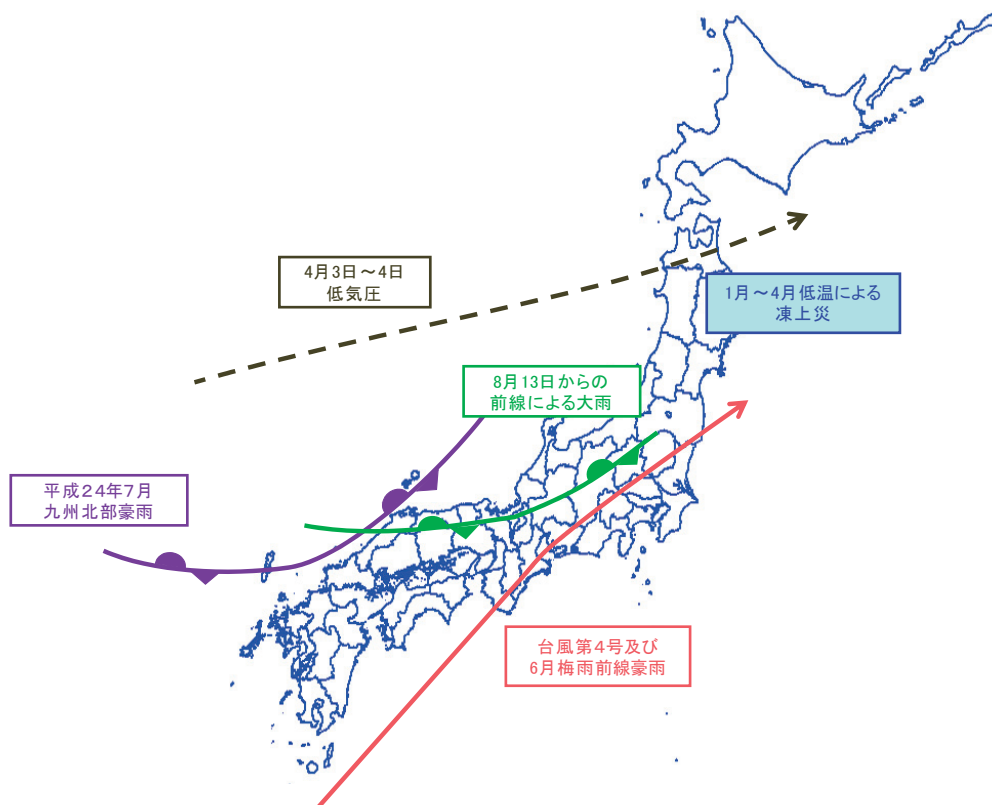
国土交通省水管理・国土保全局防災課

平成24年発生災害における国土交通省所管の公共土木施設（河川、道路、海岸、下水道等）の被害は、直轄で約161億円（115箇所）、補助で約2,151億円（13,693箇所）、合計で2,312億円（13,808箇所）が報告されている（平成25年3月29日現在）。この被害報告額は、過去最大であった平成23年被害報告額と比較すると、1割程度となっており、平成23年発生災害を除いた過去4カ年（H19～H22）平均被害額と比べると約1.5倍となっている。

主な災害としては、平成24年1月以降、北日本から西日本にかけて極端な低温傾向が続いたことに伴い、道路の地盤が凍結した結果、道路のひび割れ、不陸などが発生した凍上災、3月7日には新潟県、4月10日には山形県において融雪により発生した大

規模な地すべり災害、4月3日から4日にかけて低気圧により北日本から西日本で記録的な暴風及び高波による日本海側沿岸部での被害、5月6日に大気が非常に不安定となり発生した竜巻による茨城県・栃木県を中心とした被害、6月12日に発生し、沖縄から東北地方の広い範囲で大雨となった「台風4号」、7月11日から14日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、九州北部を中心に記録的大雨となった「平成24年7月九州北部豪雨」、8月13日から14日にかけて、前線の影響大雨による京都府を中心とした被害などがある。

これらの自然災害について、発災直後より災害情報連絡担当官（リエゾン）や緊急災害対策派遣隊



平成24年発生災害における主な異常気象

(TEC-FORCE)等を派遣し、被災状況の調査や、被災自治体への早期復旧・復興及び二次災害防止に向けた技術的助言などを行った。

#### ① 凍上災における被害状況等について

平成24年1月以降、冬型の気圧配置が強く寒気の影響を受けやすかったため、北日本から西日本にかけて冬の平均気温が低く、日本海側ではたびたび大

雪となり、ここ10年間では「平成18年豪雪」に次ぐ積雪となった。これらの低温により道路の地盤が凍結した結果、道路のひび割れ、盛上がり、沈下などの凍上災被害が北日本を中心に11道県で1,981箇所、約378億円の被害が発生した。なお、広域で凍上災が発生し災害復旧事業の対象とすることは、平成18年以来で6年ぶりであった。



舗装面の亀甲状クラック及び盛上がり、沈下  
(青森県東北町)



舗装面の亀甲状クラック及び盛上がり、沈下  
(山形県東根市)





## ② 低気圧による暴風・高波の被害状況等について

4月2日に華北で発生した低気圧は、3日に急速に発達しながら日本海側を北北東に進んだ。この低気圧からのびる寒冷前線が西日本から北日本を通過し、その後4日に低気圧は北日本を通過してオホーツク海に達した。このため、西日本から北日本の広い範囲で記録的な暴風となり、海上では大しけとなった。4月3日から5日9時までに観測された風速

が、和歌山県和歌山市友ヶ島では32.2メートルとなるなど、強いところでは30メートルを超え、暴風の日安となる風速20メートルを越えた観測地点は78地点に達し、75地点で観測史上1位を記録した。この暴風・高波により、西日本から北日本の日本海側で、海岸保全施設の崩壊など被害が発生した。

国土交通省所管の公共土木施設については、80箇所、約99億円の被害が発生した。(直轄・補助計)



本荘海岸における護岸の崩壊状況  
(秋田県由利本荘市)



比子地区海岸における護岸の崩壊状況  
(山形県遊佐町)



和木波子海岸における護岸の崩壊状況  
(島根県江津市)



③ 台風 4 号及び 6 月梅雨前線豪雨の被害状況等について

6 月 12 日にフィリピンの東海上で発生した台風 4 号は、19 日 17 時過ぎに強い勢力で和歌山県南部に上陸し、同日 20 時に愛知県東部に再上陸、東海地方から関東甲信地方そして東北地方を通過し、20 日明け方に三陸沖を抜け温帯低気圧となった。台風と梅雨前線により、沖縄から東北地方の広い範囲で大雨となり、6 月 18 日 0 時から 20 日 24 時までに観測された最大 1 時間降水量が、神奈川県山北町丹沢湖では 81

ミリとなり、観測史上 1 位の値を記録、その他全国各地で 1 時間雨量 60 ミリ以上を観測した。

この大雨により、全国各地で浸水被害等が発生し、死者 1 名、負傷者 79 名、全壊 1 棟、半壊 1 棟、一部損壊 115 棟、床上浸水 54 棟、床下浸水 231 棟の人的・住家被害（8 月 10 日消防庁調べ）を受けている。

国土交通省所管の公共土木施設については、1,721 箇所、約 189 億円の被害が発生した。（直轄・補助計）

○一般被害（消防庁調べ：平成 24 年 8 月 10 日時点）

| 人的被害（人） |       |     | 住家被害（棟） |     |      |      |      |
|---------|-------|-----|---------|-----|------|------|------|
| 死 者     | 行方不明者 | 負傷者 | 全 壊     | 半 壊 | 一部破損 | 床上浸水 | 床下浸水 |
| 1       | －     | 79  | 1       | 1   | 115  | 54   | 231  |

○公共土木施設被害（国土交通省所管 直轄・補助）

|       | 直 轄 | 鹿児島県 | 宮崎県 | 静岡県 | その他   | 合 計   |
|-------|-----|------|-----|-----|-------|-------|
| 箇 所 数 | 6   | 183  | 163 | 80  | 1,289 | 1,721 |
| 額（億円） | 4   | 17   | 19  | 24  | 125   | 189   |



## ④ 平成24年7月九州北部豪雨の被害状況等について

7月11日から14日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、九州北部を中心に大雨となった。熊本県阿蘇市阿蘇乙姫では、7月11日0時から14日24時までに最大1時間降水量が108ミリ、最大24時間降水量が507.5ミリと観測史上1位を記録した。これらを含め福岡県・佐賀県・大分県で記録的な大雨を観測し、8地点で観測史上1位の値を更新した。

この豪雨により、福岡県、熊本県、大分県等で浸水被害や土砂災害、道路崩壊などが発生し、死者30名、行方不明者2名、負傷者27名、全壊363棟、半壊1,500棟、一部損壊313棟、床上浸水3,298棟、床下浸水9,308棟の人的・住家被害（8月10日消防庁

調べ）を受けている。

国土交通省では、発災直後より災害情報連絡担当官（リエゾン）を被災自治体に派遣し情報収集等を実施するとともに、現地に緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を派遣（延べ派遣数1,059人・日：平成25年2月19日時点）し、防災ヘリによる上空からの公共土木施設の被害状況調査を行った。また、排水ポンプ車による浸水域の解消、衛星通信車による被災箇所復旧状況の中継し県へ情報提供、被災自治体の早期復旧及び二次災害防止に向けた技術的助言などを行った。

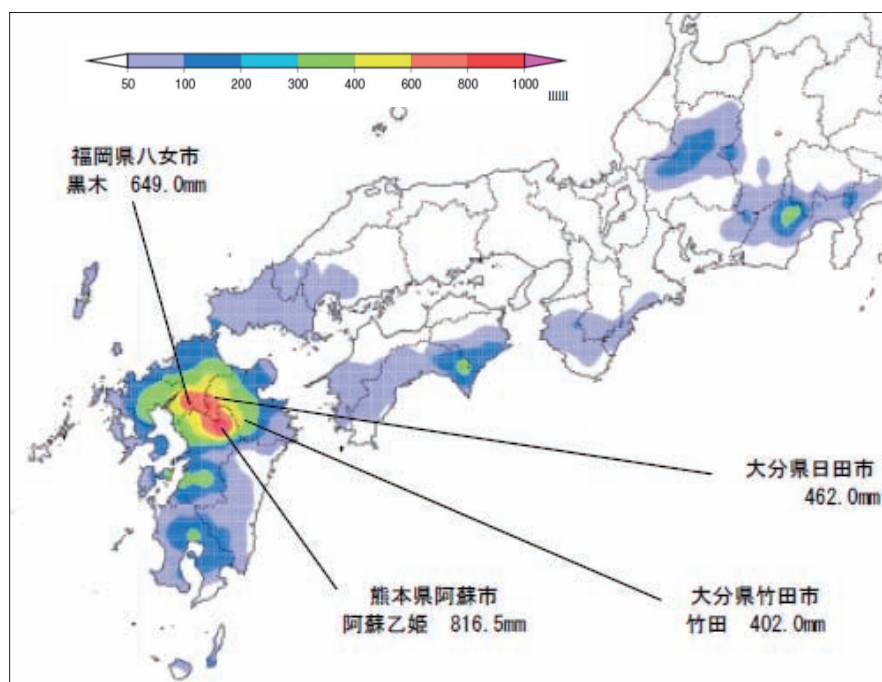
国土交通省所管の公共土木施設については、7,128箇所、約1,031億円の被害が発生した。（直轄・補助計）

## ○一般被害（消防庁調べ：平成24年8月10日時点）

| 人的被害（人） |       |     | 住家被害（棟） |       |      |       |       |
|---------|-------|-----|---------|-------|------|-------|-------|
| 死 者     | 行方不明者 | 負傷者 | 全 壊     | 半 壊   | 一部破損 | 床上浸水  | 床下浸水  |
| 30      | 2     | 27  | 363     | 1,500 | 313  | 3,298 | 9,308 |

## ○公共土木施設被害（国土交通省所管 直轄・補助）

|       | 直 轄 | 福岡県   | 熊本県   | 大分県   | その他   | 合 計   |
|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 箇 所 数 | 84  | 1,704 | 1,281 | 1,750 | 2,309 | 7,128 |
| 額（億円） | 110 | 340   | 183   | 260   | 138   | 1,031 |



期間降水量分布図（7月11日～14日）

（出典：気象庁発表資料）



白川における浸水状況（熊本県）



矢部川における浸水状況（福岡県）



県道八女香春線における法面崩壊（福岡県）



国道502号における路肩欠壊（大分県）



⑤ 8月13日から前線による大雨の被害状況等について

8月13日から14日にかけて、朝鮮半島から日本海中部へのびる前線がゆっくりと南下し、本州付近に達した。前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、近畿中部を中心に大雨となり、局地的に猛烈な雨が降った。8月13日0時から14日24時までに観測された最大1時間降水量が、大阪府枚方市枚方では91ミ

リ、京都府京田辺市京田辺では78ミリとなり、それぞれ観測史上1位の値を記録した。

この豪雨により、京都府、大阪府等で浸水被害や道路崩壊などが発生し、死者2名、行方不明者1名、負傷者4名、全壊14棟、半壊12棟、一部損壊30棟、床上浸水1,663棟、床下浸水7,200棟の人的・住家被害（8月17日消防庁調べ）を受けている。

国土交通省所管の公共土木施設については、206箇所、約27億円の被害が発生した。（直轄・補助計）

○一般被害（消防庁調べ：平成24年8月17日時点）

| 人的被害（人） |       |     | 住家被害（棟） |     |      |       |       |
|---------|-------|-----|---------|-----|------|-------|-------|
| 死 者     | 行方不明者 | 負傷者 | 全 壊     | 半 壊 | 一部破損 | 床上浸水  | 床下浸水  |
| 2       | 1     | 4   | 14      | 12  | 30   | 1,663 | 7,200 |

○公共土木施設被害（国土交通省所管 直轄・補助）

|       | 直 轄 | 京都府  | その他 | 合 計 |
|-------|-----|------|-----|-----|
| 箇 所 数 | 3   | 108  | 95  | 206 |
| 額（億円） | 0.5 | 18.5 | 8   | 27  |



志津川における護岸崩壊状況（京都府）



弥陀次郎川における破堤状況（京都府）

# 平成25年度 災害復旧実務講習会 開催

公益社団法人 全国防災協会



会場：東京都千代田区 砂防会館（シェーンバッハ・サボー）

本年度の災害復旧実務講習会は例年通り出水期を迎える直前の5月15日(水)・16日(木)の両日に、国土交通省防災課及び福岡県のご協力をいただき、東京都千代田区の砂防会館(シェーンバッハ・サボー)において開催されました。

ご承知のように、昨年(平成24年災)は、1～3月に極端な低温傾向が続いたことによる凍上災、4月初旬に発生した暴風・高波による日本海側沿岸部での災害、6月末に沖縄から東北地方までの広い範囲で大雨被害をもたらした台風第4号による災害、7月中旬には本州に停滞した梅雨前線に南からの湿った空気が流れ込んで記録的な大雨を降らせた「九州北部豪雨」災害、8月中旬には前線の影響による京都府を中心とした近畿中部豪雨災害、9月中旬には沖縄から東海地方の太平洋側で大雨を観測した台風第16号による災害 等々、国内各地で多くの尊い人命と貴重な資産が失われる大規模な災害が多数発生した年でした。

本年(平成25年災)も既に北海道や日本海側における風浪災害をはじめ、高知県等における地すべり



壇上(野田 防災課長、加藤 副会長)

災害、淡路島で発生した地震災害や静岡県等中部地域で発生した豪雨による被害 等々が各地で発生しております。

この様な自然災害に対し、災害復旧対策は必要不可欠の命題であり、特に被災直後の初動体制の確保や応急対策の速やかな実施、短期間での集中的な災害復旧事業の促進、さらに再度災害防止のための災



主催者挨拶：加藤 昭 副会長



来賓挨拶：野田 徹 防災課長

害関連事業等の積極的な推進が強く望まれるところです。

このため、いつ発生するかも知れない災害に対する備えとし、より円滑・適正な防災行政の遂行に反映させていただくことを目的に、本年度も災害復旧実務講習会を開催させていただくこととなりました。

今年度の災害復旧実務講習会は、都道府県・市町

村職員及び国土交通省地方整備局職員や賛助会員・一般企業の方々等、全国各地から320名余（別紙：受講者数参照）の参加を得、盛大裡に行われました。

講習会は、当協会の加藤 昭 副会長の主催者挨拶で始まり、引き続き、公務ご多忙にもかかわらずご来賓としてご参加いただいた野田 徹 防災課長から受講者の皆様方にご挨拶を賜りました。

#### 平成25年度 災害復旧実務講習会日程

於：東京都千代田区 砂防会館（シェーンバッハ・サボー）

| 月 日                | 講 義 題 名                                                                                                                                                                                        | 講 師 名                                                                                                                                                             |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (第1日目)<br>5月15日(水) | 受 付<br>開 講<br>主催者挨拶<br>来賓挨拶<br>最近の自然災害と防災・減災の取り組みについて<br>災害事務の取扱いについて<br>休 憩<br>災害採択の基本原則について                                                                                                  | (社)全国防災協会 事務局長 曾田 進<br>(社)全国防災協会 副会長 加藤 昭<br>国土交通省水管理・国土保全局 防災課長 野田 徹<br>国土交通省水管理・国土保全局 企画専門官 宮武 晃司<br>国土交通省水管理・国土保全局 専門調査官 阿部 洋一<br>国土交通省水管理・国土保全局 総括災害査定官 畠山 慎一 |
| (第2日目)<br>5月16日(木) | 受 付<br>①災害復旧における環境への取組について<br>②災害復旧事業の技術上の実務について<br>③改良復旧事業の取扱いと事業計画策定について<br>平成24年発生 災害復旧事業の紹介<br>一級河川矢部川水系矢部川の災害復旧助成事業について<br>下水道における災害復旧事業について<br>①災害査定留意点について<br>②平成24年発生災害採択事例について<br>閉 講 | 国土交通省水管理・国土保全局 基準係長 細川 晋<br>〃 改良技術係長 小原 到<br>福岡県県土整備部 河川課 主任技師 江崎 友和<br>国土交通省水管理・国土保全局 改良計画係長 福田 達樹<br>国土交通省水管理・国土保全局 災害査定官 西嶋 孝治<br>〃                            |



講義は、第 1 日目に防災課の宮武晃司 企画専門官（現在 首都直下地震対策官）より「最近の自然災害と防災・減災の取り組みについて」のご講義をいただいた後、別紙（講習会日程）に従い、2 日目の西嶋孝治 災害査定官から「災害査定の留意点について」及び「平成 24 年発生災害採択事例について」のご講義まで、災害復旧事業に係わる実務を中心としたそれぞれが得意とする専門分野について、講義が行われ、受講者の皆様には最後までご熱心にご聴

講をいただきました。

本年度の災害復旧実務講習会は、参加者数が大いに心配されましたが、お陰様をもちまして多数の皆様にご参加をいただき、無事終了することができました。

講習会にご協力をいただきました各講師の方々、また実務講習会にご参加をいただきました受講者の皆様方には、本誌面をお借りしまして、心よりお礼を申し上げます。

## 講 師 紹 介

「最近の自然災害と

防災・減災の取り組みについて」



講師：宮武晃司 企画専門官

「災害採択の基本原則について」



講師：畠山慎一 総括災害査定官

「災害事務の取扱いについて」



講師：阿部洋一 専門調査官

「災害復旧における環境への取組について」  
「災害復旧事業の技術上の実務について」



講師：細川 晋 基準係長

「改良復旧事業の取扱いと事業計画策定について」



講師：小原 到 改良技術係長

「下水道における災害復旧事業について」



講師：福田達樹 改良計画係長

平成24年発生 災害復旧事業の紹介  
「一級河川矢部川水系矢部川の災害復旧助成事業について」



講師：福岡県 江崎友和 主任技師

「災害査定の留意点について」  
「平成24年発生災害採択事例について」



講師：西嶋孝治 災害査定官



講習会風景



## 受 講 者 数

### 《都道府県別》

北海道 1 名、青森県 4 名、岩手県 1 名、  
宮城県 3 名、秋田県 10 名、山形県 6 名、  
福島県 17 名、茨城県 6 名、栃木県 4 名、  
群馬県 8 名、埼玉県 0 名、千葉県 25 名、  
東京都 4 名、神奈川県 21 名、新潟県 7 名、  
富山県 6 名、石川県 0 名、福井県 0 名、  
山梨県 6 名、長野県 12 名、岐阜県 6 名、  
静岡県 15 名、愛知県 4 名、三重県 5 名、  
滋賀県 3 名、京都府 10 名、大阪府 1 名、  
兵庫県 3 名、奈良県 1 名、和歌山県 5 名、  
鳥取県 3 名、島根県 3 名、岡山県 6 名、  
広島県 4 名、山口県 1 名、徳島県 3 名、

香川県 1 名、愛媛県 1 名、高知県 9 名、  
福岡県 8 名、佐賀県 4 名、長崎県 10 名、  
熊本県 1 名、大分県 4 名、宮崎県 4 名、  
鹿児島県 5 名、沖縄県 10 名  
東北地方整備局 2 名、関東地方整備局 2 名、  
北陸地方整備局 0 名、中部地方整備局 0 名、  
近畿地方整備局 0 名、中国地方整備局 0 名、  
四国地方整備局 0 名、九州地方整備局 1 名、  
北海道開発局 0 名、内閣府 0 名、  
賛助会員 12 名、企業・その他 31 名  
国土交通省 0 名  
講師その他 12 名



講習会場風景



受付風景



講習会風景



## 《各県コーナー》

# 東日本大震災の復旧・復興と応援職員の活躍について

.....福島県土木部河川整備課

## 1. 地震の状況

平成23（2011）年3月11日14時46分、国内観測史上最大となるマグニチュード9.0の巨大地震が東日本一帯を襲いました。本県では、白河市、富岡町など11市町村で震度6強を観測したほか、沿岸部には最大波9.3m以上の大津波が押し寄せ、壊滅的な被害をもたらしました。

さらに原発事故の発生に伴い、双葉郡を中心に広い範囲の人々が避難を余儀なくされ、今も15万人を超える県民の皆さんが県内外で不自由な避難生活を送っております。

## 2. 被害の状況

本県における東日本大震災による公共土木施設等の被害は、県と市町村を合わせて件数で約5,000件、金額にして約3,200億円であり、特に、被害が甚大であった沿岸部の浜通り地方には、概ね9割となる約2,800億円の被害が発生しました。

施設別に見ますと、海岸及び港湾・漁港における被害が大きく、これらで概ね6割となる約1,900億円の被害となりました。その他、河川・砂防、道路・橋梁、下水道・公園、公営住宅等、

福島県が管理するほとんどの施設で被害が発生しました。

また、今回の大地震は、浜通り地方のみならず、震源地から比較的遠い中通り地方の南部でも大きな揺れが発生し、道路、河川を中心に大規模な被害を引き起こしました。

## 3. 災害復旧の進捗状況

災害査定を終えた箇所の復旧状況は、地震による被災については、箇所数で約9割に着工し、約8割を完了しています（平成24年12月現在）。また、津波による被災については、箇所数で約6割に着工し、約2割を完了しておりまして、ほぼ着実に復旧が進んでいますが、原発事故に伴い、警戒区域に指定された区域は、まだ復旧に着手されていません。

## 4. 復興に向けて

「復興元年」と位置づけた昨年は、「ふくしまからはじめよう。」を合い言葉に、本格的な復旧・復興の取り組みをスタートし、被災現場において、ひとつでも多くの現場で槌音を響かせ、県民に復



## 《各県コーナー》



旧が進んでいることを肌で感じていただけるよう全力で取り組んできました。今後も、避難住民の住宅対策、公共土木施設等の災害復旧、津波被災地の復興まちづくり、県土の復興を支援する道路ネットワークの整備など、「復旧・復興 加速の年」となるよう取り組んでいく予定です。

#### 5. 応援職員の奮闘

復旧工事の推進においては、マンパワー不足、施工確保、用地確保などの課題が山積しておりま

す。土木部においては、震災前の約2.6倍の予算を適切に執行するため、他県等から多くの技術職員の方々の支援を受けております。当県職員と他県等職員が一丸となって、公共土木施設の早期復旧などに努めています。地震発生直後にあっては、災害査定に係る業務を中心に支援をいただきました。地震から間もないこともあり、住生活環境も十分整わない中で様々なご苦労があったかと思いますが、被災箇所の測量業務や災害査定に使用する説明資料づくり等に奮闘していただきました。

また、災害査定業務に引き続き、災害復旧事業やその他の事業の工事発注や施工現場の管理にも従事されてます。土地勘もなく、また異なるシステムを相手に多くのご苦労があったことと思いますが、応援職員の皆様の復興に取り組む姿勢には、我々も見習うべき部分が多々あります。

大震災からの復旧・復興の道りはまだまだ続きます。業務量も膨大で、とても当県職員のみで乗り越えられるものではありません。今後も他県等職員の皆様のお力をいただきながら、一日も早く復興を成し遂げたいと考えております。

## 査定官メッセージ

## 「1 年を振り返って」

国土交通省水管理・国土保全局防災課  
災害査定官

黒田 勇一

## ○はじめに

昨年 4 月に北陸地方整備局から赴任してきて早 1 年 2 カ月が過ぎました。昨年は 15 回、12 県の災害査定を担当させていただきました。査定が無事に終了することができたのも各県、市町村の関係者や立会官の皆様の協力のおかげです。大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。

出身は富山県で、今年のほかの執筆者と同様、単身で東京に来ております。開業 1 年を迎えた東京スカイツリーを見ながら通勤している毎日です。休日は天気がよければ、駅までの通勤用ママチャリで、皇居方面や荒川上下流方向など都内自転車散歩をしています。

東京に住んで改めて新幹線の威力を感じています。いままで、出張、旅行等で何度も東京へ来ており、わかっていたつもりでしたが、災害査定などで、東京発で東北、中部、近畿方面へ行ったときに気付いたことです。富山までの距離とほぼ同じ古川や岐阜羽島までが 2 時間なのに、北陸方面は越後湯沢で乗り換えて 3 時間 15 分前後かかりますし、雪や風の影響で在来線特急が運休や遅れることがあります。安定した高速走行のできる新幹線は行動圏や交流の拡大にとって果たす役割は非常に大きいと感じています。2015 年春の北陸新幹線の開通が待たれます。

ちょっと、よこみちに逸れましたが、メッセージの順番が回ってきましたので、昨年 1 年間で、思ったこと、感じたことなどを少し書いてみようと思います。この 1 年いつも手元にあったオレンジ色の災害手帳は薄汚れ、表紙や背中の金文字が薄くなり見えなくなってきました。今年は、伊勢神宮式年遷宮を記念してきれいな朱鷺色のカバーとなった災害手帳ですが、年末にはどうなっているのでしょうか。災害が少なくきれいに残ってくればいいのですが。

## ○昨年の災害査定を振り返って

・全国各地に災害査定に行かせていただきましたが、当然のことながら、行先は、山間地か、海岸がほとんどです。現場の移動の間には車の中から、被災箇所近傍の山の植生や法面状況、また、河川の勾配、線形、河床材料などを見て被災原因に関係するものを把握するように努めています。査定は限られた時間内で判断しなくてはならないため、地域特性の把握は査定の第 1 段階と考えています。例えば、近傍の法面対策がどのようになっているのか、植生の状況がどうかなどは、対策工を考えるうえで参考にすべきと考えています。類似の工法とならない場合は根拠付けをしっかりと願います。



・若手の人が現場をまかされ、申請する場面が数多くあります。災害現場、復旧内容を十分理解しなければ、要領よく説明し、また質問に答えることができません。将来を担う人たちが経験を積み、また、自信がつくので大事なことであると思っています。一生懸命やっていたと思いますが、経験不足などから、沈黙の時間が生じることがあります。上司の方々あまり放置せず、タイミングを見計らってのフォローをよろしくお願いします。

・現場で査定を行うのですが、現場に来ているからわかるだろうと内容を省略した説明は査定時間を長引かせることになります。被災状況とその原因を説明したうえで、復旧工法について説明してもらうとよく頭の中に入っていきます。順序のよいわかりやすい説明に心掛けてください。現場を熟知することがその第 1 歩だと思います。

・応急工事が実施されていて、負担法の対象となるにも係わらず申請されていない事例がいくつかありました。理由は着手前の写真がそろっていないということであったと記憶しています。一刻も早く対応したい気持ちや忙しさは十分わかりますが、写真の撮影をお願いします。GPS 付きの携帯で撮れば位置情報や時間も記録されますので活

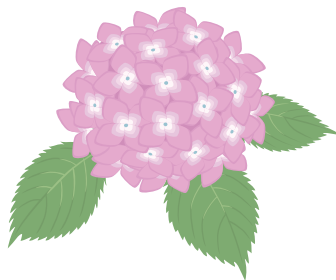
用していただければと思います。

・私事ですが、子供がひょんなことから足を骨折してしまいました。ソフトボールをやっている最中に転んだことが原因です。そんなことだと思いますが、何かの拍子に、間が悪くということかと思っています。被災直後は、現場では進入路の確保も難しく応急復旧を図る際にも十分な安全の確保が必要です。地元の方々は早期の復旧を望んでおられますが、復旧を急ぐあまり、ちょっとした油断から事故が起きないように安全対策、点検は十分に行ってください。

#### ○おわりに

被災された地元の皆さまは不安な思いと不自由な生活をされており、その一番近くにいる申請者の皆様は早期復旧の強い思いで災害査定の準備、査定後は発注と大変な日々を過ごされていると思います。査定の際にも、夜遅くまで設計書の修正等本当におつかれ様でした。

今年も負担法に基づき公平公正な災害査定を行うことはもちろんですが、昨年 1 年間の経験を活かし査定が円滑に進むよう心がけていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。



## 防災課だより

## 人 事 異 動

〔水管理・国土保全局関係人事発令〕

△平成25年 5 月 1 日

| 氏 名   | 新 所 属         | 備 考                  |
|-------|---------------|----------------------|
| 大場 芳成 | 砂防部保全課海岸室課長補佐 | 大臣官房地方課公共工事契約指導室課長補佐 |

△平成25年 5 月16日

|       |                             |                                         |
|-------|-----------------------------|-----------------------------------------|
| 井上 智夫 | 河川計画課国際室長                   | 河川環境課水利技術調整官                            |
| 宮武 晃司 | 防災課首都直下地震対策官                | 河川計画課河川計画調整室企画専門官（併）防災課                 |
| 尾崎 正明 | 国土技術政策総合研究所下水道研究部下水道機能復旧研究官 | 大臣官房付（復職（（財）下水道新技術推進機構下水道新技術研究所研究第一部長）） |
| 井上 育之 | 国土交通大学校総務部総務課人事係長           | 総務課総務係                                  |
| 坂井 佑介 | 九州地方整備局九州技術事務所火山防災減災課長      | 砂防部砂防計画課付                               |
| 中山 哲郎 | 水政課専門調査官                    | 水政課管理係長                                 |
| 井樋世一郎 | 河川計画課国際室課長補佐                | 河川計画課長補佐                                |
| 千野 貴彦 | 河川計画課国際室国際調査係長              | 河川計画課河川情報企画室国際調査係長                      |
| 今井 康治 | 河川計画課国際室地球温暖化分析係長           | 河川計画課河川計画調整室地球温暖化分析係長                   |
| 出光 夏子 | 河川計画課国際室地球温暖化分析係            | 河川計画課経済係                                |
| 明戸 邦浩 | 防災課企画専門官                    | 防災課長補佐                                  |

△平成25年 5 月27日

|       |                                     |                          |
|-------|-------------------------------------|--------------------------|
| 奥田 晃久 | 河川計画課付                              | 河川計画課付（復帰（フィリピン共和国））     |
| 津森ジュン | 辞職（（独）土木研究所つくば中央研究所材料資源研究グループ上席研究員） | 下水道部下水道企画課付（復帰（ベトナム共和国）） |

△平成25年 5 月29日

|       |                          |             |
|-------|--------------------------|-------------|
| 岡安 祐司 | 下水道部下水道企画課付（派遣（ベトナム共和国）） | 下水道部下水道企画課付 |
|-------|--------------------------|-------------|

## 会員だより

## 「随行員を経験して」



鹿児島県河川課  
技術主査  
諏訪 正啓

## 1. はじめに

まず最初に、鹿児島県の PR をします。

ご存じのとおり、本土最南端の桜島で有名な県です。九州新幹線が全線開業し、3月で2周年を迎えました。関西・中国地方を中心として、県外から多くの皆様方に鹿児島を訪れていただいております。

鹿児島県は、南北約600kmにわたり豊かな自然が広がり、桜島や錦江湾をはじめ、南の島々に広がる雄大な景観が楽しめるほか、個性ある歴史・文化、黒豚・黒牛などの多彩な食材に恵まれており、「本物」の素材に触れながら、悠然とした「スローライフ」の旅を満喫できる場所であると思います。

また、5年後の平成30年は、明治維新から150周年を迎えることから、西郷隆盛や大久保利通など多くの英傑を輩出した鹿児島の歴史や文化にもスポットを当てていくことを考えているところです。

これからも、南の観光交流拠点として、「おもてなし」の心と「本物。鹿児島県」でがんばっていきます。ぜひ、鹿児島にお越しください。

鹿児島へお越しの際は下記の HP をご覧ください。

鹿児島県観光サイト：

本物。の旅 かごしま

<http://www.kagoshima-kankou.com/>

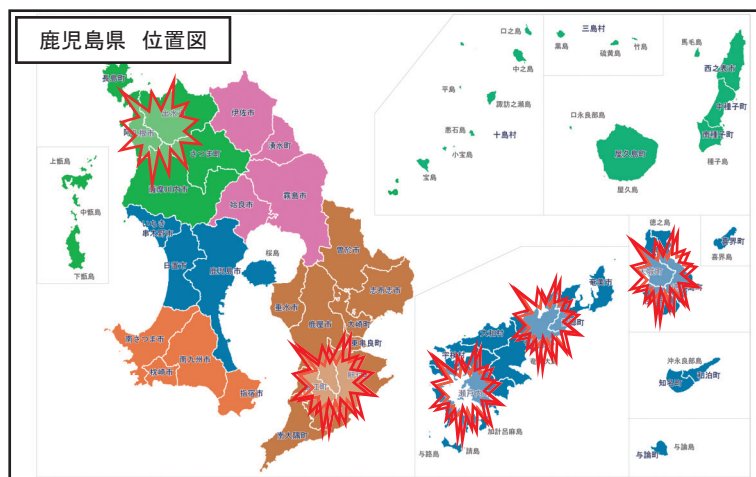


## 2. 平成24年発生災害の概要

当県において、平成24年に発生した災害については、奄美大島、北薩、大隅地区を中心とした6月から7月にかけて梅雨前線豪雨や台風15、16、17号による豪雨等により、県・市町村合わせて677箇所、105億8千万余りの被害報告を受けました。

災害査定は最終的に第9次査定まで行い、県・市町村の合計が676箇所、88億4千万円余りが採択されたところであります。

一日も早い完成を目標に職員一丸となって取り組んでいます。





## 会員だより



鹿児島県奄美大島（大島郡龍郷町）



鹿児島県奄美大島（奄美市住用町）

## 3. 随員として

私は、初めて平成24年8月鹿児島県第二次査定の随員として奄美大島の現場に行きました。随員の役割として、「災害復旧の手引き」にこう記されています。

- ① 随員は申請者の意向を引き出し、三者合意を導くキーマンとしての役割をになっている。また、随員に自治体の統一見解を求めることができる。
- ② 随員は、事前に申請内容を確認済みであることを前提に査定を行うこととしている。キーマン…。内気な私には無理です。

今考えると、なぜ河川課に配属になったか疑問でした。これまでの人生の反省をさせるためなのか？ 前課長に聞いたところ、災害が発生するとほとんど家に帰れないことを皆知っており希望者がいなかったの…君？ 考えてもしょうがないので、とりあえずがんばろう。とうとう実地査定が始まり、笑顔を決やさないように、奄美大島のPRをしながら、現場を回りました。

私も県庁入庁後23年経過し、現場経験は豊富な方なので、現場での質問はスムーズに答えることができ、問題はありませんでした。

しかし、「三者合意を導くこと！」は難しことでした。申請者が緊張して何を言っているかわからない状況や申請者が興奮して査定官、立会官に詰めよっている状況など、どう扱っていいものか…。

さらには、実地検査終了後の集計作業で数字が合わないトラブルなどもありました。結果5グループ中、採択率は最下位でした。

奄美大島の夜食時には、査定官・立会官に励まされ迷惑をおかけした1週間でした。非常に疲れました。

台風シーズンになり、23年度同様も奄美大島での被害が多く、結果トータルで6週間、第8次査定まで災害査定の随員を行いました。後半になると慣れたもので、随員4原則を勝手に作りました。①最初は笑顔。②申請者を叱る。③たまに口を出す。④最後も笑顔。この4つをうまく組み合わせながら、これからも随員としてがんばっていこうと思います。

最後に、随員として感じたことは、仕事とはいえ、遠い鹿児島まで来て鹿児島県民のために、復旧工法を考えていただいている査定官、立会官の両名に対し、最後は気持ちよく帰ってもらうようにしなければならないと思いました。「和をもって貴しと為す」の言葉どおり、三者がお互いに仲良く、調和していくことが最も大事であることが、災害査定に初めて随行したことでよくわかりました。これから鹿児島県へ査定に来ていただく査定官、立会官の皆様方！私が随員として同行させていただく際は、ご指導の程よろしくお願いします。

## 4. おわりに

平成25年度定期異動により当課は大幅な人事異動がありました。全体の過半数が変わりましたので紹介をさせていただきます。昨年度は梅雨前線豪雨や台風災害等被害が多く、災害の年となり心が病んだところですが、今年は災害のない年になってほしいものです。奄美大島からの赴任者が多いのも一つ気になりますが、今年も両省の方々へはご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いします。

会 員 だ よ り

～ 鹿 児 島 県 土 木 部 河 川 課 の 紹 介 ～

新・奄

松元技術補佐



新・奄

福元課長



新

上片平補佐



開発係

新



ダム・維持管理・情報システム 担当



防災海岸係



災害・県単・海岸担当

治水係

新



新・奄

新・奄

国庫補助・整備計画担当

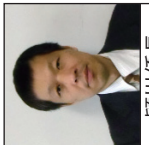
管理係



河川管理担当

災害係

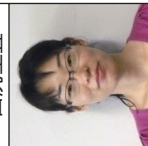
新



災害担当（事務）

工事事務係

新



工事事務・経理担当

新：新任者 奄：奄美大島からの赴任

協会だより

## 平成25年度 第 1 回通常理事会開催

本年 4 月 1 日から公益社団法人として新たにスタートした全国防災協会の、平成25年度第 1 回通常理事会が、平成25年 5 月23日(木)13時から、東京都千代田区 砂防会館別館「立山」において開催されました。

### 1. 出席者

陣内 会長      脇 副会長      加藤 副会長  
小池 副会長      佐々木 理事      藤芳 理事  
菅原 理事      西村 理事      田中 理事  
堀内 監事

### 2. 議事録署名人

陣内 会長      加藤 副会長      堀内 監事

### 3. 審議事項

第 1 号議案 平成24年度事業報告について  
第 2 号議案 平成24年度収支決算について  
(監事からの監査結果の報告)

第 3 号議案 規程等の制定について  
第 4 号議案 現規程の適用について  
第 5 号議案 会員の入会について  
第 6 号議案 顧問の委嘱について  
第 7 号議案 理事（副会長）の順序について  
第 8 号議案 平成25年度定時総会の開催事項について  
第 9 号議案 賛助会員の加入について(別表－1)

いずれの議案とも、事務局より説明が行われ、原案どおり承認された。

### 4. その他

事務局から次の報告がなされた。

- ① 平成25年度事業計画及び収支予算について
- ② 理事の追加について
- ③ 公益社団法人認定経過について

### 5. 閉 会

別表－1 賛助会員の入会について

| 団 体 名 ・ 代 表 者                                           | 本 社 等 所 在 地            |
|---------------------------------------------------------|------------------------|
| 九州オリエント測量設計株式会社<br>代表取締役社長                      中 島 靖 人 | 〒850-0022 長崎県長崎市馬町55番地 |





陣内 会長



脇 副会長



堀内 監事



理事会風景

協会だより

## 平成25年度 定時総会開催について

### 1. 日 時

平成25年 6 月11日（火）

13：30～（受付開始12時00分）

（今回は総会に先立って、例年行われていた理事会は開催致しません。）

### 2. 会 場

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4

砂防会館別館 1 階（シェーンバッハ・サボー）  
「木曾の間」

TEL. 03-3261-8386

### 3. 参加人員

2 名程度ご出席下さい。

### 4. 申込方法及び締切

各都道府県毎に、様式に必要事項を記入しお申し込み下さい。

（申込みについては HP にも掲載しています。）

### 平成25年度 定時総会 議事次第（案）

#### 1. 開会

#### 2. 会長挨拶

#### 3. 来賓挨拶

#### 4. 議事録署名人選任

#### 5. 議案審議

第 1 号議案 平成24年度収支決算の承認について  
（監事からの監査結果の報告）

第 2 号議案 会費規程の制定について

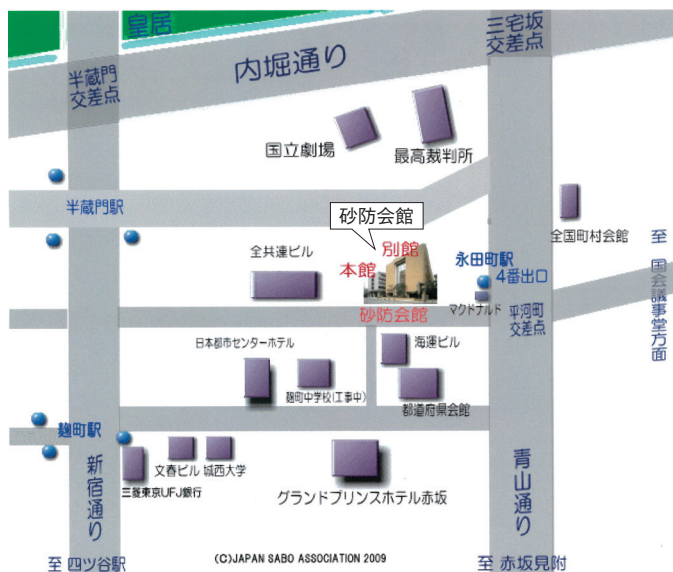
第 3 号議案 役員の選任について

#### 6. 報告事項

(1) 平成24年度事業報告について

(2) 平成25年度事業計画及び収支予算について

#### 7. 閉会



### 会場案内図

■地下鉄 地下鉄 永田町駅  
（有楽町線・半蔵門線・南北線）  
4 番出口 徒歩 1 分

協会だより

## 平成24年度における 「災害復旧技術専門家派遣制度」の活用実績について

平成24年度における「災害復旧技術専門家派遣制度」の活用実績は表－1のとおりでした。

平成24年度は、7月に発生した九州北部豪雨の現地調査や、全国各地で行われた災害復旧事業技術講習会の講師等として延べ派遣者日数で132名の方を

派遣させていただきました。

本年度も災害復旧事業担当者におかれましては、本制度のご活用を念頭におきながら、円滑な災害復旧事業の推進にあたられますようお願いいたします。

表－1 平成24年度 災害復旧技術専門家 派遣実績 一覧表

平成25年 3月31日現在

| No. | 専門家名                    | 派遣先            | 派遣月日            |     | 派遣要請概要         |                  |     |                  |
|-----|-------------------------|----------------|-----------------|-----|----------------|------------------|-----|------------------|
|     |                         |                | 月日～月日           | 日間  | 被災要因<br>(派遣目的) | 被災箇所<br>(派遣先所在地) | 箇所数 | 主な工種             |
| 1   | 脇田 政一                   | 鹿児島県土木部        | 4月16日～<br>4月17日 | 2日間 | 土木施設災害対策研修     | 鹿児島県奄美市          | 1   | 災害復旧事業<br>及び復旧工法 |
|     |                         |                | 5月11日～          | 1日間 |                | 鹿児島県鹿児島市         | 1   |                  |
| 2   | 横田 悦治                   | 島根県土木部砂防課      | 5月23日～          | 1日間 | 災害研修(技術)       | 島根県益田市           | 1   | 災害査定の<br>留意点他    |
|     | 櫻 隆之                    |                | 5月30日～          | 1日間 |                | 島根県川本町           | 1   |                  |
|     | 塚本 隆富                   |                | 5月31日～          | 1日間 |                | 島根県松江市           | 1   |                  |
| 3   | 神山 康                    | 静岡市            | 5月31日～          | 1日間 | 災害査定実務研修       | 静岡県静岡市           | 1   | 災害査定の<br>留意点     |
| 4   | 大塚正登志<br>川村 治           | (財)北海道建設技術センター | 5月31日～          | 1日間 | 災害復旧技術講習会      | 北海道札幌市           | 1   | 災害復旧工法           |
| 5   | 及川 和男<br>菊地 光雄<br>津嶋 勇榮 | (財)岩手県土木技術振興協会 | 6月6日～           | 1日間 | 東日本大震災         | 岩手県下閉伊郡山田町       | 1   | 道路災害<br>(橋梁復旧)   |
| 6   | 金内 剛                    | 東北地方建設局企画部     | 6月7日～           | 1日間 | 災害査定技術セミナー     | 宮城県多賀城市          | 1   | 災害復旧工法           |
| 7   | 目黒 信雄                   | (社)北陸建設弘済会     | 6月20日～          | 1日間 | 災害復旧事業技術講習会    | 石川県金沢市           | 1   | 災害復旧工法           |



| No.                              | 専門家名           | 派遣先                 | 派遣月日    |     | 派遣要請概要          |                  |     |                  |
|----------------------------------|----------------|---------------------|---------|-----|-----------------|------------------|-----|------------------|
|                                  |                |                     | 月日～月日   | 日間  | 被災要因<br>(派遣目的)  | 被災箇所<br>(派遣先所在地) | 箇所数 | 主な工種             |
| 8                                | 大塚正登志<br>川村 治  | 北海道開発局              | 6月26日～  | 1日間 | 災害査定研修          | 北海道札幌市           | 1   | 災害復旧事業<br>及び復旧工法 |
|                                  | 江崎 國夫<br>芳賀 敏二 |                     | 6月27日～  | 1日間 |                 |                  |     |                  |
| 9                                | 村上 隆博          | 神奈川県河川課長            | 6月27日～  | 1日間 | 台風第4号に伴う災害調査    | 神奈川県足柄上郡山北町      | 1   | 河川災害<br>(河岸崩落)   |
| 10                               | 小野 重充<br>下田 和美 | (財)高知県建設技術公社        | 7月10日～  | 1日間 | 災害復旧事業技術講習会     | 高知県高知市           | 1   | 災害復旧工法           |
| 11                               | 豊元 實正          | (財)沖縄県建設技術センター      | 7月13日～  | 1日間 | 災害復旧事業実務講習会     | 沖縄県那覇市           | 1   | 災害採択の<br>基本原則    |
| 12                               | 小林 豊           | (社)関東建設弘済会          | 7月24日～  | 1日間 | 災害復旧事業技術講習会     | 東京都台東区           | 1   | 災害復旧工法           |
| 13                               | 滝 寿幸           | (社)茨城県測量設計業協会       | 9月6日～   | 1日間 | 災害復旧事業研修会       | 茨城県水戸市           | 1   | 災害復旧事業           |
| 14                               | 村上 隆博          | 神奈川県県土整備局技術管理課      | 9月26日～  | 1日間 | 技術職員研修(災害復旧)    | 神奈川県横浜市          | 1   | 災害復旧事業           |
| 15                               | 原 一儀           | (社)中部建設協会           | 9月28日～  | 1日間 | 災害復旧事業講習会       | 愛知県名古屋市          | 1   | 災害復旧工法           |
| 16                               | 小林 豊           | (社)埼玉県測量設計業協会       | 10月23日～ | 1日間 | 設計技術研修会         | 埼玉県さいたま市         | 1   | 災害復旧工法           |
| 17                               | 東井 裕純          | 測量設計協同組合全国交流会       | 11月2日～  | 1日間 | 測量設計協同組合全国情報交流会 | 京津府京都市           | 1   | 災害査定調査           |
| 18                               | 及川 和男<br>津嶋 勇榮 | (社)岩手県測量設計業協会       | 11月9日～  | 1日間 | 災害復旧事業技術講習会     | 岩手県盛岡市           | 1   | 改良復旧事業           |
| 19                               | 村上 隆博          | (一社)神奈川県建設コンサルタント協会 | 12月19日～ | 1日間 | 災害実務研修          | 神奈川県横浜市          | 1   | 災害復旧事業           |
| 20                               | 岡沢 文偉          | (財)千葉県建設技術センター      | 3月6日～   | 1日間 | 災害復旧支援技術者講習会    | 千葉県千葉市           | 1   | 災害復旧事業           |
| 要請機関20機関 派遣回数20回・23箇所 延べ派遣者日数32名 |                |                     |         |     |                 |                  | 23  |                  |

※この他、「平成24年7月九州北部豪雨」関係で、8市町村<sup>\*1</sup>に技術専門家を派遣済み（7月15日～1月31日までの間、技術専門家9名<sup>\*2</sup>で延べ100人・日派遣）

合計 要請機関28機関 派遣回数21回・31箇所 延べ派遣者日数132名

\*1 柳川市、八女市、東峰村、朝倉市、みやま市、広川町、うきは市、大川市

\*2 増元四郎、中島一見、増田暁範、森光 誠、久良木敏彦、永田和彦、竹下憲治、廣松 誠、堤 晴夫

## 新刊ご案内

平成25年 5 月発刊

## 平成24年発生災害採択事例集

A 4 判 320頁余 頒価5,000円(消費税込み) 送料協会負担

## 【概 要】

本書は、平成24年に発生した災害の概要を記載するとともに、近年の社会情勢の著しい変化を適切に捉え、コスト縮減や新たな技術の採用など、復旧工法等について様々な工夫を加えた事例について、各地方自治体の方々のご協力を得て取りまとめたものであります。

これまでに発刊された各年の採択事例集と同様に、本書が今後の災害復旧の迅速かつ的確な対応並びに災害復旧事業関係者の技術力の向上の一助となれば幸いです。

## 平成24年発生災害採択事例集 【目次】

## 1. 平成24年発生災害について

- (1) 平成24年発生災害の概要
- (2) 主な平成24年発生災害の概要

## 2. 平成24年発生公共土木施設災害（国土交通省所管）の概要

- (1) 決定額及び被害報告額
- (2) 決定額内訳
- (3) 平成24年発生大規模災害箇所一覧表（4億円以上）
- (4) 一定災の推移

## 3. 平成24年河川等災害復旧助成事業・河川等災害関連事業及び河川等災害関連特別対策事業の概要

- (1) 総括
- (2) 平成24年河川等災害復旧助成事業の概要
- (3) 平成24年河川等災害関連事業の概要
- (4) 平成24年河川等災害関連特別対策事業の概要
- (5) 平成24年特定小川災害関連環境再生事業の概要

## 4. 平成24年発生災害採択事例

- (1) 河川災害復旧工事  
(補助災害全体に占める割合：約38%)
- (2) 海岸災害復旧工事  
(補助災害全体に占める割合：約5%)
- (3) 砂防・急傾斜・地すべり災害復旧工事  
(補助災害全体に占める割合：約4%)
- (4) 道路災害復旧工事の概要  
(補助災害全体に占める割合：約48%)
- (5) 橋梁災害復旧工事の概要  
(補助災害全体に占める割合：約2%)
- (6) 下水道災害復旧工事の概要  
(補助災害全体に占める割合：約0.2%)
- (7) 改良復旧工事の概要

参考 1 収録事例特徴別分類表

参考 2 災害査定事務の簡素化

## 新刊ご案内

平成25年 5 月発刊

実務上手放せない本書をぜひお手元に一冊！

## 災害復旧実務講義集（平成25年度版）

A 4 判 400頁 頒価4,000円（消費税込み） 送料協会負担

## 内容案内

- ・最近の自然災害と防災・減災の取組みについて
- ・災害復旧における環境への取組について
- ・災害採択の基本原則について
- ・災害復旧事業の技術上の実務について  
——設計積算と工事実施——
- ・災害査定の留意点について
- ・改良復旧事業の取扱いと事業計画策定について
- ・災害事務の取扱いについて
- ・下水道における災害査定について
- Ⅰ 災害復旧制度の概要
- Ⅱ 災害報告
- Ⅲ 災害事務の管理
- Ⅳ 国庫負担率の算定事務
- Ⅴ 災害復旧事業の予算
- Ⅵ 改良復旧事業等に対する補助制度
- Ⅶ 福岡県 矢部川災害復旧助成事業
- Ⅷ 災害復旧事業費の精算と成功認定

## 図書ご案内

平成20年 5 月発刊

## 写真と映像で学べる DVD ビデオ付 『水防工法の基礎知識』

A 4 判 83頁 カラー印刷 頒価2,800円（消費税込み） 送料協会負担

突然洪水などが起きた時、人命や財産を守るため、その地域に住んでいる人々が被害を最小限に食い止めようとすることを水防活動といいます。状況に応じて、最適な水防工法を実施します。

本書では、水防に欠かせない『ロープワーク』『準備工』『水防工法』の基礎に加え、『水防技術の応用』や『くらしへの応用』など、一般・家庭にも役立つ技術を紹介しています。さらに、本書の内容をそのまま映像化したビデオ（DVD）も添付いたしました。水防工法の習得・研鑽に最適な教材と確信しております。

## 水防工法の基礎知識内容案内

ロープワーク

水防工法

くらしへの応用

準備工

水防技術の応用

〈資料〉

詳細については、公益社団法人 全国防災協会ホームページの出版図書案内をご参照下さい。



平成25年 発生主要異常気象別被害報告

平成25年 5 月15日現在 (単位：千円)

|                                                                                                                          | 冬期風浪及び風浪  |                        | 豪雨                |                                       | 地すべり |         | 融雪      |    | 地震               |                                 | 梅雨前線豪雨 |    | 台風  |    | その他の |         | 合計                |                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|------------------------|-------------------|---------------------------------------|------|---------|---------|----|------------------|---------------------------------|--------|----|-----|----|------|---------|-------------------|---------------------------------------|
|                                                                                                                          | 箇所数       | 金額                     | 箇所数               | 金額                                    | 箇所数  | 金額      | 箇所数     | 金額 | 箇所数              | 金額                              | 箇所数    | 金額 | 箇所数 | 金額 | 箇所数  | 金額      | 箇所数               | 金額                                    |
| 北海道<br>青森<br>岩手<br>宮城<br>秋田                                                                                              | 2         | 260,000                |                   |                                       |      |         |         |    |                  |                                 |        |    |     |    | 19   | 448,800 | 21                | 708,800                               |
| 山形<br>福島<br>茨城<br>栃木<br>群馬                                                                                               |           |                        | 1                 | 80,000                                |      |         |         |    |                  |                                 |        |    |     |    | 1    | 70,000  | 1<br>1            | 70,000<br>80,000                      |
| 埼玉<br>千葉<br>東京<br>神奈川<br>新潟                                                                                              |           |                        |                   |                                       |      |         |         |    |                  |                                 |        |    |     |    |      |         | 4<br>2            | 54,000<br>180,000                     |
| 富山<br>石川<br>福井<br>山梨<br>長野                                                                                               | <3><br>6  | <260,000><br>720,000   |                   |                                       |      |         |         |    |                  |                                 |        |    |     |    |      |         | <3><br>6          | <260,000><br>720,000                  |
| 岐阜<br>静岡<br>愛知<br>三重<br>滋賀                                                                                               |           |                        | 7<br>19<br>1<br>7 | 60,120<br>303,500<br>10,000<br>26,000 |      |         |         |    |                  |                                 |        |    |     |    |      |         | 7<br>19<br>1<br>7 | 60,120<br>303,500<br>10,000<br>26,000 |
| 京都<br>大阪<br>兵庫<br>奈良<br>和歌山                                                                                              |           |                        |                   |                                       |      |         |         |    | <4><br>(1)<br>11 | <33,000><br>(25,000)<br>237,000 |        |    |     |    |      |         | <4><br>(1)<br>11  | <33,000><br>(25,000)<br>237,000       |
| 鳥取<br>島根<br>岡山<br>広島<br>山口                                                                                               | 1         | 36,000                 |                   |                                       |      |         |         |    |                  |                                 |        |    |     |    |      |         | 1                 | 36,000                                |
| 徳島<br>香川<br>愛媛<br>高知<br>福岡                                                                                               |           |                        | 1<br>17           | 6,600<br>127,000                      |      | 2       | 120,000 |    |                  |                                 |        |    |     |    |      |         | 1<br>19           | 6,600<br>247,000                      |
| 佐賀<br>長崎<br>熊本<br>大分<br>宮崎                                                                                               |           |                        |                   |                                       |      |         |         |    |                  |                                 |        |    |     |    |      |         | 8                 | 64,500                                |
| 鹿児島<br>沖縄                                                                                                                |           |                        |                   |                                       |      |         |         |    |                  |                                 |        |    |     |    |      |         | 3                 | 77,000                                |
| 札幌<br>仙台<br>さいたま<br>千葉<br>横浜<br>川崎<br>相模原<br>新潟<br>静岡<br>松崎<br>名古屋<br>京都<br>大阪<br>堺<br>神戸<br>岡山<br>広島<br>北九州<br>福岡<br>熊本 |           |                        |                   |                                       |      |         |         |    |                  |                                 |        |    |     |    |      |         |                   |                                       |
| 補助計                                                                                                                      | <3><br>11 | <260,000><br>1,196,000 |                   |                                       |      |         |         |    | <4><br>(1)<br>11 | <33,000><br>(25,000)<br>237,000 |        |    |     |    |      |         | <7><br>(1)<br>116 | <293,000><br>(25,000)<br>2,962,520    |
| 直轄計                                                                                                                      | 2         | 247,000                | 1                 | 150,000                               | 4    | 192,000 |         |    |                  |                                 |        |    |     |    | 20   | 518,800 | 3                 | 397,000                               |
| 合計                                                                                                                       | 13        | 1,443,000              | 71                | 968,720                               | 4    | 192,000 |         |    | 11               | 237,000                         |        |    |     |    | 20   | 518,800 | 119               | 3,359,520                             |

※上段（ ）内書きは、下水道・公園分、< >内書きは港湾・港湾に係る海岸分である。

水管理・国土保全局 防災課 配置図

平成25年5月16日現在

